

1. 登山部立山紀行

午前8時、まだ日差しはないが雲は高く、無風。鏡のような「みくりが池」には立山がくっきりと映っている。室堂平を囲む灰色の山肌にハイマツの緑の群落。所々に白い雪渓が点在する360度の大パノラマ。絶好の登山日和の3日目であった。



8月23日～25日、合唱団登山部の立山行が挙行された。本間隊長を筆頭に伊藤・植木・原田・由本のベテラン隊員に加えて初参加の鶴野の6人。畠隊員は体調不良で涙を吞んで断念。代わりにおいしいハタハタの燻製が同行となった。準備万端整えて8月23日の早朝、新宿の高速バス乗り場に結集。伊藤・植木隊員はJR利用、本間隊長以下由本・鶴野の東横線組は始発で新宿へ。なぜか同乗の筈の原田隊員は別ルートで到着。準備運動で心臓に負荷をかけながら来たとのこと。

曇り空の新宿を定刻6:10に出発。首都高から中央高速を経て、安曇野ICで一般道におりる頃からぼつぼつと雨が降り出す。終点扇沢には定刻通り11:00過ぎに到着し、トロリーバスで黒部湖へ。夏休みも終盤で乗り場は家族連れや団体客でごった返している。このバスルートは「黒部の太陽」の関電トンネル。全長5.4km、貫通までに2年を要し、内7カ月は80mの破碎帯に難航した映画のクライマックス部分だが、16分で通過して「黒部ダム駅」に到着。ダムの堰堤を渡り、ケーブルカー、ロープウェイ再びトロリーバスと乗り継ぎ室堂着13:00。

標高2400mの室堂平に出ると雨に加えて強風で殆ど視界ゼロ。雷鳴まで聞こえる。本間隊長の即断で急遽予定を変更し、二日目の「みくりが池温泉」に宿を確保。今までのツアーは全て晴天なのに、と各隊員の冷たい視線が初参加の鶴野に集中する。日本一高所の温泉を堪能した後夕食。標高2400mの宿とは思えないほど豪華な食事に、ビール・缶チューハイで乾杯。

明けて二日目、相変わらずの風雨に早発ちは断念し、朝食前に温泉へ。午後からの晴天に期待を込めて8:50出発。前日より風雨は弱まっているが山容は見えない。雨で滑りやすくなった道を各隊員が慎重に隊長に続く。小規模な雪渓を越え、ほぼ一時間で標高2700m、「一の越山荘」に到着。強風に避難している登山客が多い。雨は

やんでいるが50mほど先は雲の中。それでも何人か急峻な岩だらけの斜面を登って行く。思慮分別に長けた我が中高年登山隊は小屋の中で暖かいカップラーメンなどを啜りながら風が弱まるのを待つが一向に衰えず、遂に隊長は11:00撤収を決断。風で雲はかなり上がり、室堂平を見ながらの快適な下山となる。朝は霧で全く見えなかった室堂山荘前で昼食をとっているうちに再び雨が降り出す。やはり隊長の英断は正しかった。湿原散策を楽しみながら、みくりが池温泉へ帰還。



ゆっくりと温泉につかった後、またも豪華な夕食にビールと銘酒立山で乾杯。夕食後に富山県警山岳警備隊チーム・ケルンのヤングイケメンポリスによる出前講習があり、ノートパソコン・スライドによる立山・剣岳の攻略法など、大変参考になった。

三日目→本文冒頭へ。イメージ登山の後、往路と逆コースを辿る。「大観峰」での雄大な後立山連峰の山並みとロープウェイからの眺望を堪能しながら黒部ダムへ。バスの時間までを利用して、黒部湖周遊の遊覧船に乗船。湖面から見上げ、あの山腹にトンネルを作った偉業に改めて感服。

帰路は夏休み最後の日曜日とあって、中央道は大月から35kmの大渋滞。新宿着は21:45となったがともかく無事解散。初日・二日目の天候は外れたが、終わり良ければ全て良し。温泉と景色に十分浸った山行であった。

隊員が撮影した写真アルバムが別途MLメールで紹介されていますので、興味ある方はご覧ください。(鶴野隊員の寄稿)

2. 長寿番付のあり方

ニューズレター197号の付録に「長寿番付」を付けましたが、反響の大きさは制作者自身が驚くほどでした。

これについて、いくつか意見をいただきました。「地位」がわかればよいので、年齢は不要。生年月日全部ある方が便利。まったく相反するご意見です。次回出す前には、ご相談したいと思います。

大相撲の番付では出身地を表記しています。急いで作ったので、現住所を入れましたが、出身地にしてほしいという声もありました。たとえば、本間さんは「満州」と、鬼木さんは「博多?」と、高取さんは「ボタ山???'と、などです。これについても、ご意見お待ちしております。